戦争,平和。資料館

ピースあいちニュース

第37号

2021年7月15日発行

〒465-0091 愛知県名古屋市名東区 よもぎ台2丁目820 電話・FAX 052-602-4222



発行:戦争と平和の資料館ピースあいち

http://peace-aichi.com/

【定価:30円】

開催中

ピースあいち夏の企画展

『少女たちの戦争~青春のすべてが戦争だった』

2021年7月13日(火)~9月25日(土)(最終日は15時まで)

1945年8月15日。

終戦の日を多感な女学生として迎えた世代は、その 15年前におきた満州事変の頃に生れました。物心が つく間に、2・26事件、南京事件、真珠湾攻撃と立て続 けに歴史的大事件が起こり、女学生となってからは、敗 戦への急坂を転げ落ちるような毎日を生きていました。

本展では、地元名古屋出身の漫画家 おざわゆきさんの『あとかたの街』を案内役として、戦時下を生きた少女たちの青春に迫ります。

軍国教育へと変質する学校、工場への動員、激しくなる空襲。死と隣り合わせの日々の中にも、少女らしい

夢や希望があったでしょう。遺された日記や写真、校章バッジ、少女雑誌の付録など、当時の空気を伝える貴重な実物資料もたくさん展示します。

今回の展示で取り上げた女学校には、戦後に男子校と統合されて公立の共学高校になった学校や、今も同じ名前の女子校として続く学校があり、さまざまな形で地元の今につながっています。若い人たちに「自分事」として感じてもらえたらと願います。

また最後に、戦争のない平和な世の中がいつまでも続くことを願って、現代の若い世代が取り組んでいる活動も紹介します。





PLATE LEARNING

勤労動員の女学生たち(ピースあいち所蔵)



木銃訓練をする女学生(『金城学院100年史』)



椙山学徒動員の腕章 (椙山女学園歴史文化館所蔵)



金城学院の栄光館

◆展示概要

【第一部】12歳の少女がみた戦争

- ●おざわゆき『あとかたの街』から選んだ15場面
- ●戦時下の少女の暮らし

【第二部】愛知の女学生たち

- ●戦時下の学校制度●女子教育の目的は良妻賢母
- ●少女たちの勤労動員●学校に爆弾が落ちた日

【プチギャラリー展示】

- ●現代の若者たちの活動
- 金城学院中学校・高等学校、東邦高等学校、椙山女学園中学校・高等学校、同朋高等学校、愛知県高校生フェスティバル

◆本展で取り上げた学校

愛知県立第一高等女学校(現明和高校)/愛知淑徳高等女学校(現愛知淑徳中·高校)/金城女子専門学校(現金城学院中·高校)/椙山女子高等学校(現相山女学園中·高校)/中京高等女学校(現至学館高校)/豊橋高等家政女学校(現藤J花女子高校)/豊橋市立高等女学校(現愛知県立豊橋東高校)/名古屋市立第一高等女学校(現南陽高校)/名古屋市立第三高等女学校(現旭丘高校)/名古屋女子商業学校(現市邨中·高校)/半田市立女子高等女学校(現愛知県立半田高校)

予告

「戦争の中の子どもたち」展

10月5日(火)~12月4日(土)(最終日は15時まで)

2011年夏にスタートした子どもたちのための展示は、今年で10年目になります。展示内容の基礎は、昨年亡くなった斎藤孝さんが築いてくださいました。その思いを大切に引き継いでいきたいと思います。今年の特別展示は、敗戦後海外に残され「引き揚げてきた子どもたち」に焦点を当てます。

お一人は敗戦時「京城公立第一高等女学校」1年生だった栗本伸子さん。もうお一人は「高千穂在満国民学校」5年生だった松下哲子さんです。お二人とも日本の敗戦とともにそれまでの恵まれた生活がひっくりかえり、内地の子どもたちとは異なった体験をされました。そして、自分たちの恵まれた生活が、朝鮮や中国の人たちの犠牲の上に成り立っていたことを、ずっと考えながら今日まで生きてこられました。お二人の体験をとおして、日本がどんな戦争を起こしたのか、考えていきたいと思います。



1942年栗本さん(中央)4年生の時の家族写真 (京城の自宅庭)



1944年松本さん4年生の時の学級写真 (奉天の高千穂在満国民学校校舎前)

予告

核兵器禁止条約が発効しました! 核兵器の終わりの始まり 10月5日(火)~年内予定 於:プチギャラリー

核兵器の廃絶を願う被爆者の声はついに世界を動かしました。2020年10月24日、「核兵器禁止条約」を批准した国が50か国となり、2021年1月22日に発効しました。核兵器を廃絶することが世界の国々の規範となったのです。ピースあいちではこれに連動して「核兵器の終わりの始まり」と題してパネル展示を行ないます。



予告

「愛知平和のための戦争展」に参加します。

8月12日(木)~15日(日) 於:市民ギャラリー矢田

今年のピースあいちの展示は「戦争とスポーツ―戦時下、時代に翻 弄されたスポーツ選手たち」。「ピースステージ」ではピースあいち語り 手の会・語り継ぎ手の会(リボン)の会員がお話しします。

また8月13日(金)14:30~15:30にはピースあいち朗読の会(オリーブ)が、朗読「にんげんをかえせ/『峠三吉詩集』より|を上演します。

8月12日(木) 13:00~14:00 原田和果さん(語り継ぎ手の会) 「従軍看護婦・杉本初枝さんの戦争体験」

8月14日(土) 11:00~12:00 木下信三さん(語り手の会) 「10歳の学童疎開体験」

ピースあいち2021年夏「戦争体験を聴くシリーズ」

お話するのはピースあいち語り手の会・語り継ぎ手の会メンバーです。ZOOMによるオンライン配信も行います。開催時間は<u>いずれの日も14:00~15:00</u>。

お申し込み方法等は、ホームページ (https://peace-aichi.com/)でご確認ください。



開催日	参加方法		語り手(ご年齢)	開催日	参加方法		語り手(ご年齢)
8月/	①オンライン	②会場	テーマ	8月/	①オンライン	②会場	テーマ
1日(日)	ZOOM		柳川たづ江さん(語り継ぎ) 腹話術で伝える父の沖縄戦	11日(水)	ZOOM	ピースあいち (定員15名)	小笠原淳子さん(89歳) 空襲、疎開と戦後の暮らし
5日(木)	ZOOM	ピースあいち (定員15名)	青木正雄さん(語り継ぎ) 父親の兵士戦場体験	12日(木)		ピースあいち (定員20名)	津田さゑ子さん(83歳) 空襲体験
6日(金)		ピースあいち (定員20名)	佐々木陽子さん(語り継ぎ) 私のヒロシマ	13日(金)		ピースあいち (定員20名)	乾 正男さん(88歳) 疎開・空襲
7日(土)		ピースあいち (定員20名)	筧 久江さん(89歳) 勤労動員·空襲	14日(土)		ピースあいち (定員20名)	都築基雄さん(90歳) 学徒動員
8日(日)	ZOOM		近藤世津子さん(語り継ぎ) 斎藤孝さんの戦争	15日(日)	ZOOM		森下規矩夫さん(83歳) 名古屋空襲

報告

ピースあいち初代館長 「野間美喜子さんを偲ぶ会 | を開催

5月9日、ご家族とピースあいちの有志で開催した 「偲ぶ会」に約120名の方にご参会いただきました。

献花の後、野間さんの生涯を振り返るビデオの上映、俳優の天野鎮雄さん・山田昌さん、鈴木秀幸NPO理事長のお別れのことば、続いて「法曹アンサンブル」による野間さんの好きだった「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」と「見上げてごらん、空の星を」の演奏、そしてご遺族のお礼のことば…。

大切な人を失った悲しみを分かち合い、野間さんの 足跡と志を確認しあった、優しく温かい会でした。





合わせて『追悼文集 自由を愛した人へ』と『遺稿 集 向日葵は永遠に-平和憲法一期生の八十年』(風 媒社 1500円+税)が刊行されました。お問合せは「ピー スあいち」へ。

報告

企画展 「戦争とスポーツ~戦時下、時代に翻弄されたスポーツ選手たち~」 4月6日(火)~5月22日(土)

たくさんの感想をいただきました。その一部をご紹介します。

○タイムリー! 沢村栄治さんのコーナーに注目しました。近鉄・宇治山田駅(伊勢市)から、歩いて約5分の明倫商店街のなかに、石碑ですが生家跡がありました。昔の大ピッチャーで、「もう少し長生きできていれば」と思う大投手です。(51歳男性)

○戦争とスポーツの関係は、高校の国語で軽くふれただけでした。敵国のスポーツはやるべきではないという風潮があり、日本式にしたり、有名なスポーツ選手も戦死したなど、初めて知ることが多く、いろいろ考えさせられました。(18歳女性)

○東京オリ ンピックをみ る目が変わり ました。(21 歳女性)

○戦争中に もオリンピック



が行われていたなど、多くを知り学ぶことがあった。 ジェンダー問題など、まだある差別が少しでもなくなれ ばいいと思いました。(21歳女性)

○「スポーツの祭典」の中の孫基禎さんの展示が心に 残りました。(60歳女性)

報告

企画展 「沖縄から平和を考える~ウチナーとヤマトの架け橋に」(5月25日炒~7月10日出)【関連イベント】

6月26日、「語り継ぐ戦争体験『元日本兵の父 日比野勝廣の沖縄戦』」と題する中村桂子さん(ピースあいち語り継ぎ手の会)の講演会を開催し、オンラインで32名、会場で21名の参加がありました。中村さんは、沖縄戦で負傷し、破傷風で生死の境をさまよった後に生還した父・日比野勝廣さん(北名古屋市)の戦争体験を継承しています。

米軍に追われ、南城市の糸数アブチラガマに集まった負傷者百数十名のうち、生存者はわずか9人。その 壮絶な体験を日比野さんが『今なお、屍とともに生きる』として出版する手伝いをしたことが、語り継ぎのきっかけだったそうです。日比野さんの手記に対しては、好意的に評価してくれる人も多かったものの、日本兵としての加害性を追及する沖縄の人もいたという辛いエ



ピソードも率直に紹介されたのが印象的でした。

中村さんと語り継ぎ手の会の取り組みについてはメールマガジン101号(2018年4月)でも紹介していますので、こちらもご参照いただければ幸いです。

https://www.peace-aichi.com/piace_aichi/201804/vol_101-8.html

平和へのメッセージ

戦後76年、戦場へ行った経験のある人たちは少なくなってきました。空襲にあった人もだんだん数が減ってきました。戦場の話や、空襲の話を直接聞くことは難しくなってきました。このため「ピースあいち」は、4年前「語り継ぎ手の会」を作り、今は戦争体験語り継ぎボランティアの研修を行っています。今回登場の5人も、戦争や平和についてしっかり勉強し、平和を根付かせようという人の集まりです。まだ、これから育っていく若い組織ですが、平和希求の思いを強くもっています。

今を生きる私たちにできること

私は小学校1年生の頃に「はだしのゲン」を見ました。「はだしのゲン」は当時の私にとって衝撃的な物語でした。それをきっかけに戦争について関心をもつようになり、テレビドラマや、本を通して自分で戦争について知るようになりました。

小学校6年生の頃の社会の教科書には、太平洋戦争について載っていました。しかし、授業ではわずかに扱われるのみで、中学校や高校でも戦争や平和について学ぶことはありませんでした。私は「多くの人の命と平和な暮らしが奪われた歴史上の大きな出来事なのに、どうして学校でこんなに扱われないのか」と疑問に思いました。

清水 綾香



語り継ぎ手ボランティアの研修は、初めて知る悲惨な事実に驚くばかりでした。

戦争や平和について学ぶ上で、戦争を体験した方の声は重要です。しかし、戦後70年以上経ち、戦争体験を身をもって語れる方の平均年齢は83歳を超え、いなくなってしまう時代が迫っています。今、自分にできることは、その方々の声を聞いて戦争の恐ろしさや悲惨さについて理解を深め、平和の大切さを考えること、そしてこれからの時代を生きる同世代の人々、次の世代を担う子どもたちに伝えることなのではないかと考えました。

父に託された平和

私は、ピースあいちの「語り継ぎ手ボランティア」の 研修を受けています。私の父の戦争体験を十分に聞 き取ることができなかったという反省から応募しまし た。しかし、語り継ぎ原稿を作る過程で、父が15歳で 空襲により家族を失い、その後も大変な苦労をした事 実を自分に当てはめてみた時、語れないことは当然だ と考えるようになりました。日本の平和は多くの犠牲の もとに築かれていると強く感じ、私自身が考えるべきこ ととし、父に託されたと今は思っています。

自分でも本当に遅くて恥ずかしいのですが、原稿 作成をしているうちに戦争を少しずつ私事として考え

田中 玲子



られるようになってきました。過去の 戦争を単なる出来事ではなく、広く

客観的に捉えるともに、語ることができないほどの体験とは何なのかを理解しなければと考えます。

戦争の時代に生まれた人たちにとって、戦争が日常であったように、戦後生まれの私にとって、戦争がなく平和であることが日常です。今あるこの日常が明日も続くように、戦争とは何だったのかを考え、父たちが苦労を重ねながら作ってきた平和を、今度は自分で守るために語り継いでいこうと思います。

ピースあいちニュース 第37号(2021年7月)

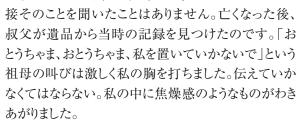
戦争の多面性を考えて未来につなげたい

佐々木 陽子

私は広島出身です。父方の祖父が校長をしていた 国民学校には原爆投下後、たくさんの負傷者が運び 込まれました。私が子どもの頃、祖父は時々、原爆手 帳取得のための証言を頼まれていました。被爆者だ と名乗ることの壁は高く、高齢になってから取得を考 えることが多かったのです。

高校生の時、元日本兵の方々の大陸で行った加害者としての証言を聞く機会があり、「私は鬼でした」という告白にショックを受けました。「知らなかった」と、思いました。

母方の祖父は市街地で被爆しました。外傷はない のにまもなく曾祖父母は亡くなり祖父も勤務先で倒れ てしまいました。祖母はその知らせを受けて疎開先か ら駆け付け、最期の5日間を看病してすごしました。私は祖母から直



平和について思うことは、一つではありません。これからを担う子どもたちにも考えていってほしいと切に願って、私は今、「語り継ぎボランティア」研修会に参加して勉強中です。

平和の種まきをしよう

「戦争と平和」を考える私の原点は何だったかと自問自答してみた。50年前に読んだ文庫本『きけわだつみのこえ』ではなかったかと、遠い記憶が蘇ってきた。本を読みながら目頭が熱くなった感覚を思い出した。もう一つは新米教師だった頃に見た「被爆30年ヒロシマ・原爆の記念展」ではなかったかと思う。被爆した市民が記憶をもとに描いた絵が展示してあった。原爆の恐ろしさを改めて思い知らされた。50年近く経った今も、絵は戦争に対する怒り、悲しみ、苦しみを訴えかけてくる。少しも色あせない力強さで迫りくる。

その後、原爆展で入手した絵画集を授業で取り上

野村 秀夫

げ、スライドにした絵を見せながら 解説をした記憶がある。他にも外

部講師から戦争体験を話してもらったことなど、いくつ も記憶に残っている。少しだが平和の種まきをしてき たと思う。

若い世代がやがて日本の重要な舵取りを担うとき、 戦争へ舵を切らぬよう、平和外交の努力を積み重ね、 庶民の平和な暮らしを守り抜いてほしい。日本の平和 はもちろん世界平和のために尽力してほしいと次の 世代へ期待している。微力ではあるが、今しばらく平 和の種まきをしていきたいと思う。

どうしても伝えたい たったひとつの思い

近藤 世津子

今年1月、作家の半藤一利さんが亡くなられました。 自らを「歴史探偵」として、膨大な取材や資料の検証 を行い、日本の戦争の歴史について数多くの著書を 残されました。著書を通し、半藤さんは、一貫して「歴 史から学ぶ」「戦争は絶対に始めてはいけない」と訴 えてこられました。

私は、ピースあいちで「語り継ぎ手ボランティア」として研修を受け始めて、自分が、いかに日本の戦争の過去について何も知らなかったかを思い知らされました。今からでも遅くない、過去について学び、平和な未来を子どもたちに残すために、自分にもできることが

あるはず、との思いを強くしています。

半藤さんは、子どもたちに向けて書いた絵本を、「いま、あえて『絶対』という言葉をつかってどうしても伝えたい たったひとつの思いがあります」「戦争だけは絶対にはじめてはいけない」という言葉で締めくくっています。

半藤さんが残した、この願いを実現させるために、世界中で、一人でも多くの人が、この思いを共有し、それぞれが、小さくてもできることを実行していくことを願っています。



報告

戦後75年プロジェクト「語り継ぎ手ボランティア研修」が終了しました。

2020年の戦後75年を契機に行ってきた「語り継ぎ 手ボランティア研修会」が2021年7月18日に終了しま す。毎月1回、計9回(コロナ対応で1回休み)の研修会 は、感染症対策でなかなか一堂に会することができ ず、申し訳なく思うことがありました。しかし参加者の 方々はとても前向きで、すでに自分なりのシナリオを完 成させている方もいます。この夏には、2人の方が語り 継ぎ手デビューの予定です。

参加者にはピースあいち「戦争体験・語り継ぎ手の 会」に入っていただき、引き続き「語り継ぎ手」として活 動できるよう支援していきます。素晴らしい参加者を得



第1回研修の様子。以後はオンラインを組み合わせて行なった。

て、「ピースあいち」としても新しい一歩が踏み出せた プロジェクトでした。

報告

2020年度ステファニ・レナト賞(奨励賞)受賞

2020年1月、名古屋NGOセンターから、社会的弱者の立場にたって人間の尊厳を守る活動を地道に続けている団体や個人を表彰する「ステファニ・レナト

賞」の奨励賞をいただきました。これを励みに、これからも平和のために活動を続けていきます。

報告

新型コロナウイルス感染拡大への対応

8月に開催予定の戦争体験の語りはコロナ対策として少数の参加数に限定し、かつオンラインによる参加ができるようにしました。企画展にあわせたイベントも行ないません。

今月11日で愛知県のまん延防止等重点措置は解除される予定ですが、12日から県独自厳重警戒宣言

が出されることになります。解除に伴って人の動きが増え、さらにオリンピックによる影響が愛知県にも及ぶとされていますので、ピースあいちでは夏の企画展期間中(9月25日まで)は、最小限のスタッフによる開館を続けます。団体来館の受入れについてはホームページをご参照ください。

報告

新年度の理事会・総会を開催しました。

NPO平和のための戦争メモリアルセンターは5月23日に理事会、6月13日に総会を開催し、新年度の活動方針を決めました。コロナ禍の中で、総会は今年も書面による評決となりましたが、多くの会員のみなさまの賛成を得て、議案が採決されました。活動方針では「情報化」など新しい方針も出され、コロナ禍の中でも

できることを取り組んでいくことになりました。

またハガキで寄せられたご意見が採択に立ち会った人たちに紹介されました。

6月19日に臨時理事会を開催し(こちらも書面評決です)、新人事案が採択されました。

予告

愛知サマーセミナーで講座を行います。

7月17日、名城大学ナゴヤドーム前キャンパスを会場としたサマーセミナーで、以下3部構成の講座を行います。
①長崎原爆アニメ映画「NAGASAKI 1945アンゼラスの鐘」

被爆しながらも医療活動を続けた秋月辰一医師

の苦悩を伝える虫プロ作品です。

- ②パネル展示「核兵器禁止条約が発効しました!核 兵器の終わりの始まり(広島の被爆者サーロー節子 氏の言葉)」
- ③「いま 伝える戦争体験」

シリーズ 植田九条の会 平和を守る仲間たち⑪

天白区「植田九条の会」は、2007年9月9日の「発足 のつどい」で、住民かつ会員の故森英樹先生の講演 「参議院選挙で九条改憲は遠のいたのか」で産声を あげました。現在、会員は300名です。毎月9日(土日の 場合は19日)の朝7時から1時間、植田駅前でスタン ディングを始めて7月で162回になります。

一昨年の12周年のつどいは竹信三恵子さんを招 き、「憲法九条を労働問題から考える~「希望ある働 き方改革 |の道はここにある~ |と題し講演を持ちまし た。彼女は、「男女共同参画」の変質を皮肉って話し ました。「『女性が輝く(Shine) 政策』ですが、私には シャインと読めません。死ねと読めます(大爆笑)。九条 を守ることは生活を守ることでもあるのです。この九条

の会のような市民団体の運動が大切です。(拍手)」

昨年の13周年のつどいの講演は、中谷雄二弁護 士。「安倍退陣で改憲の動きはどうなる!!」と題し、論旨 明解かつ発声明快な語りに思わず引き込まれました。

講演、文化的催し、展示即売の3点セットが特色で す。12周年のつどいでは、地元に拠点を置く吹奏楽団 「アンサンブル・ヴィヴァーチェ」の演奏に魅了され、13 周年のつどいでは、天白スポーツセンター健康教室講 師による「100歳まで歩くために」で、もも上げの大切さ を学びました。

今、世話人会で14周年のつどいに向けて議論して います。 (事務局 濱島肇)







植田駅前のスタンディング



13周年のつどいの「アンサンブル・ ヴィヴァーチェー



中谷雄二弁護士

ボランティアの窓

戦争を風化させてはいけない という思いから 辻井 麻伽

私が「ピースあいち | でボラ ンティアをするようになった動機 は、2つあります。1つめは祖 父の影響です。小学生の頃 から祖父に戦時中の話を聞い たり、戦争資料館や遺跡に連



れて行ってもらったりと戦争を学ぶ機会が多かったか らです。2つ目は高校の修学旅行です。修学旅行は 九州に行き、長崎の原爆について学びました。そこ で、語り部さんにお話を聞いたり、遺跡を見て、原 爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さを改めて実感しました。

そこから戦争について深く知りたいと思うようにな り、本を読んで、大学の卒業論文でも戦時中の遊び と食事というテーマでインタビュー調査を行い研究しま した。戦争を風化させてはいけない、語り継がない といけないという思いから「ピースあいち」でボラン ティアをしています。

三つの楽しみ

1) 休憩時間などに、当 番の方々とピースボランティ ア志望の経緯、身内の方

の戦争体験談、人・平和 をこよなく愛する有名人の

こと、語り継ぎ手の方のこ



桑原 勝美

となど、お話を交わすことがとても楽しみです。

- 2) 展示室にお客さんがおられないとき、企 画展示をじっくり観覧させていただけることで す。興味深い事柄がパネルいっぱいに展開さ れていて読み応えがあり、大いなる学びの場に なっています。
- 3) 来館していただいたお客さんから刺激を 受けることです。平和な社会を次・次々世代 へ渡して行きたいとの切実な想いをお聴きする とき、ピースボランティア活動の使命感を新たに しています。

資料館探訪 29

聖コルベ記念館一身代わりで死んだ神父

大浦天主堂への坂道を登っていくと、道沿いの右側に「聖コルベ記念館」という小さな建物があった。コルベ神父、遠藤周作の『女の一生第二部』に出てくる主人公である。

彼は1930年に神父として長崎に来た。日本で布教活動をするが、1936年、ポーランドへ呼び戻される。ポーランドがナチスドイツに占領されたとき、ナチスの戦争政策を批判したため、収容所に入れられ、最後はアウシュヴィッツ収容所に送られる。脱走した者がいたため、10人が死刑にされることになった。男が「女房子どももさようなら」と言って泣き崩れた。コルベ神父は「私は一人ものです」と言って身代わりになった。男はナチスが崩壊後、解放されたが、妻にしか会えなかった。コルベ神





父は戦後カトリックの聖人とされた。

コルベ神父が長崎で活動した修道院が今のコルベ記念館になっている。そこにはコルベ神父のゆかりの遺品や写真、アウシュヴィッツ関連の資料が展示されている。

記念館でコルベ神父が『長崎の鐘』の永井隆さんの治療を受けていたのを知った。 (N)

月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン(無料)」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください!

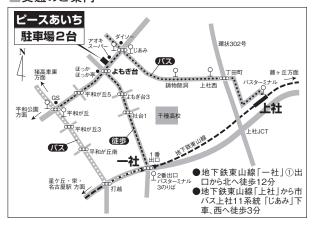
ぜひ「ピースあいち」の会員に!

開館15年目に入り、戦争と平和の資料館として社会的にも、ますます期待されつつあります。コロナ蔓延阻止等重点措置や緊急事態措置が出された状況下ですが臨時休館とせず、最小の受け入れ態勢で開館してきました。そして7月13日から待ちに待った夏企画「少女たちの戦争」展も始まりました。

「ピースあいち」の基本財源は、入館料(大人300円・子供100円)と会員の皆さんの年会費(正会員6000円・賛助会員3000円)です。来館者数は、開館した2007年は約12,000人、以後は6,000人前後で推移し、昨年は2,000人を下回りました。

現在会員数は785名(正会員351名・賛助会員434名)ですが、「ピースあいち」の年間経費約1,100万円には大きく足りません。不足分は不確定な寄付金や助成金に頼っているのが現状です。自主財源の確立は、まず会員の拡大です。ぜひ多くの方に会員になっていただき「ピースあいち」を支えてくださいますよう、お願い申し上げます。なお、払込取扱票にて年会費を払込みいただければ、会員となります。払込取扱票の口座番号は「00830-8-13084」です。

■交通のご案内



【利用案内】

- ●開館日 火曜日~土曜日
- ●開館時間 午前11時~午後4時
- ●休 館 日 日曜日·月曜日

夏期 2021年9月26日~10月4日

- ●入 館 料 大人 300円 小中高生 100円
- ●常設展示「愛知県下の空襲」「戦争の全体像・15年戦争」「戦時下のくらし」「現代の戦争と平和」、準常設展示「戦争と動物たち」「戦争と子どもたち」。ほかに、図書や戦争体験DVDのライブラリーもあります。
- ●学校や団体の見学で、展示ガイドや体験談を 希望される場合は、事前にご相談下さい。
- ●駐車場は2台分あります(300円)。他に障がい 者用が1台分あります(無料)。

●編集後記●

8月は、日本では鎮魂の月です。あの戦争であまりに多くの人が亡くなり、家族が離ればなれになったからこそ、戦後の76年間は、8月になると、それぞれの人がそれぞれの形で2度と戦争の無いことを願ってきました。「ピースあいち」も同じです。開設されてまだ20年足らずの新参者ですが、戦争を憎み、平和を求める気持ちは人後に落ちません。ニュースをお読みいただいたら、是非とも、ピースあいち夏の「戦争体験を聴くシリーズ」にご参加を。また今年の夏の企画展「少女たちの戦争」へもお出かけください。本欄左の地図を参考に。 (S.K)